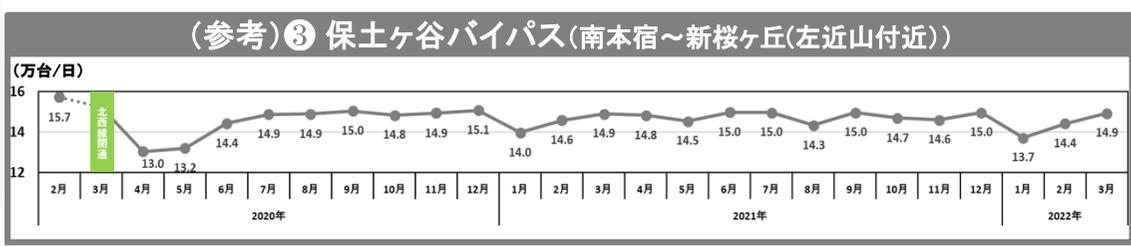
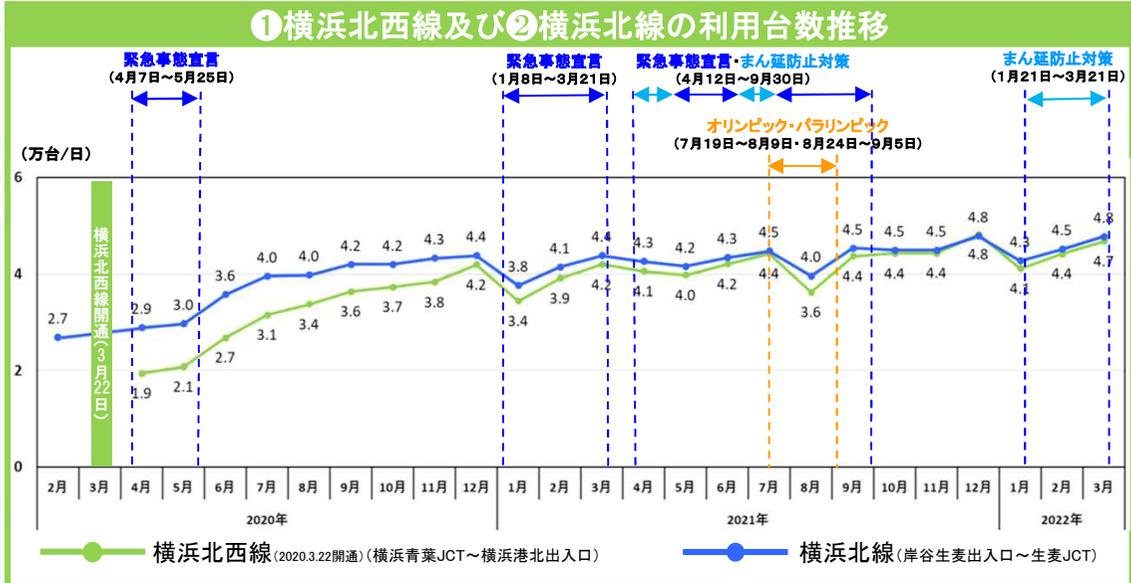

横浜北西線開通2年後の利用状況について

1. 横浜北西線の利用台数推移

○横浜北西線(2020.3.22開通)の交通量は開通以降、着実に増加し、開通2年後(2022.3時点)では約4.7万台/日
 ○また、横浜北西線開通前(2020.2時点)と比較し、横浜北西線と連続する横浜北線の交通量は2022.2時点で約2.1万台/日増加。一方で、並行する保土ヶ谷バイパスの交通量は2022.2時点で約1.3万台/日減少
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響が含まれます。



<使用データ> 首都高:首都高車両感知器データ
 保土ヶ谷バイパス:関東地方整備局 横浜国道事務所提供データ
 <集計期間> 月別の平日平均
 ※東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催中の交通対策期間(2021年7月19日(月)～8月9日(月)、8月24日(火)～9月5日(日))は除外しています。
 ※保土ヶ谷バイパスの2020年2月1日(土)～5日(水)及び2022年3月1日(火)～8日(火)はデータ欠損のため除外しています。

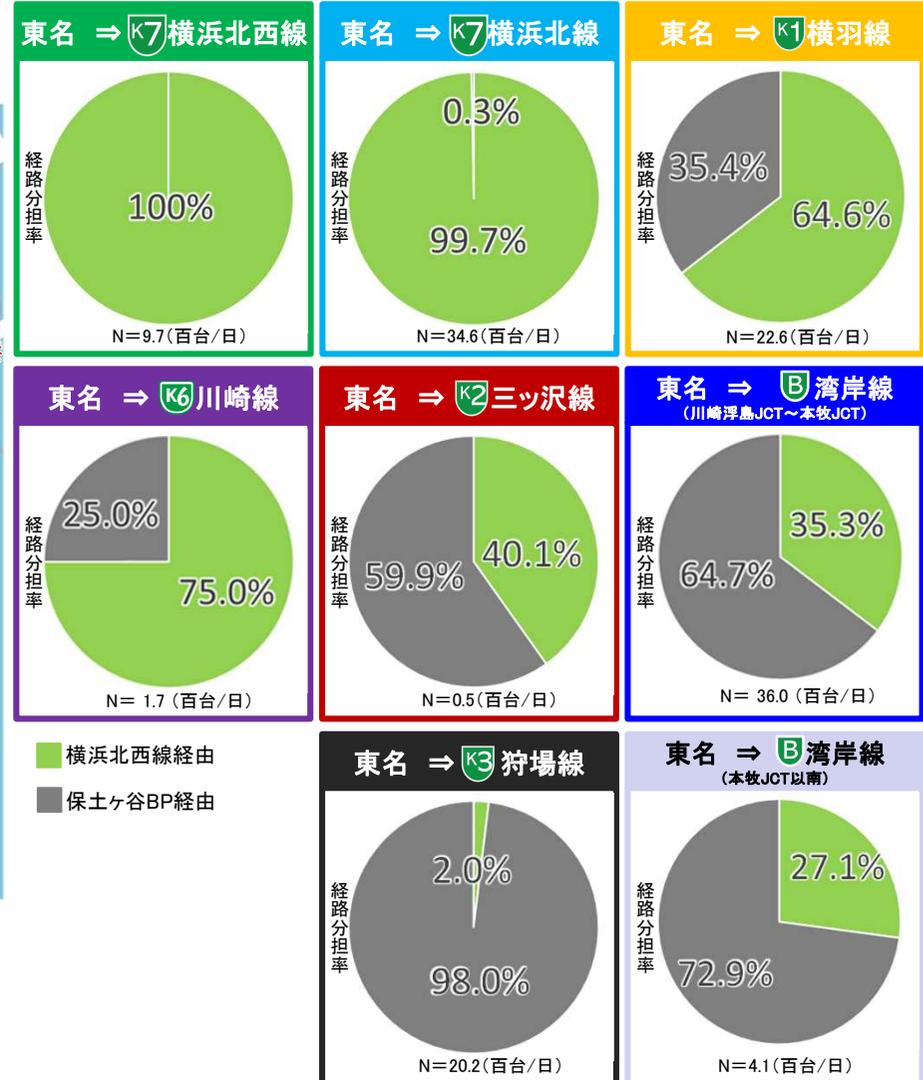
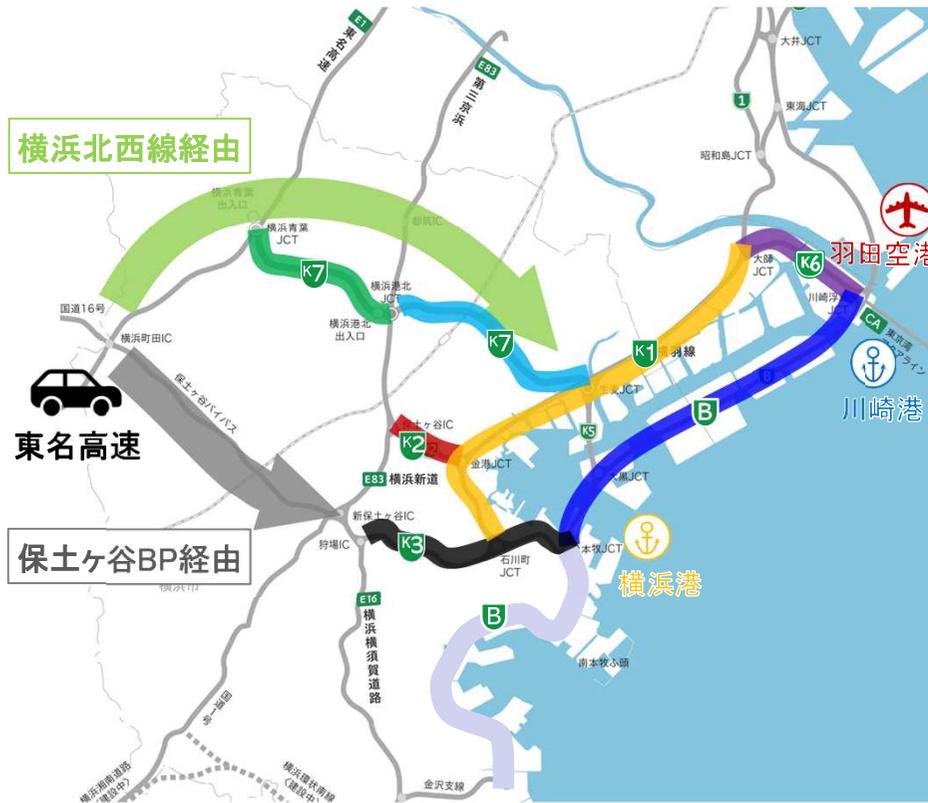
2. 横浜北西線の利用範囲

○横浜北西線利用の交通は横浜エリア、湾岸エリア及び東京東側エリアなど広い範囲で利用されている
※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響が含まれます。



3. 路線別の経路選択状況(神奈川エリア)

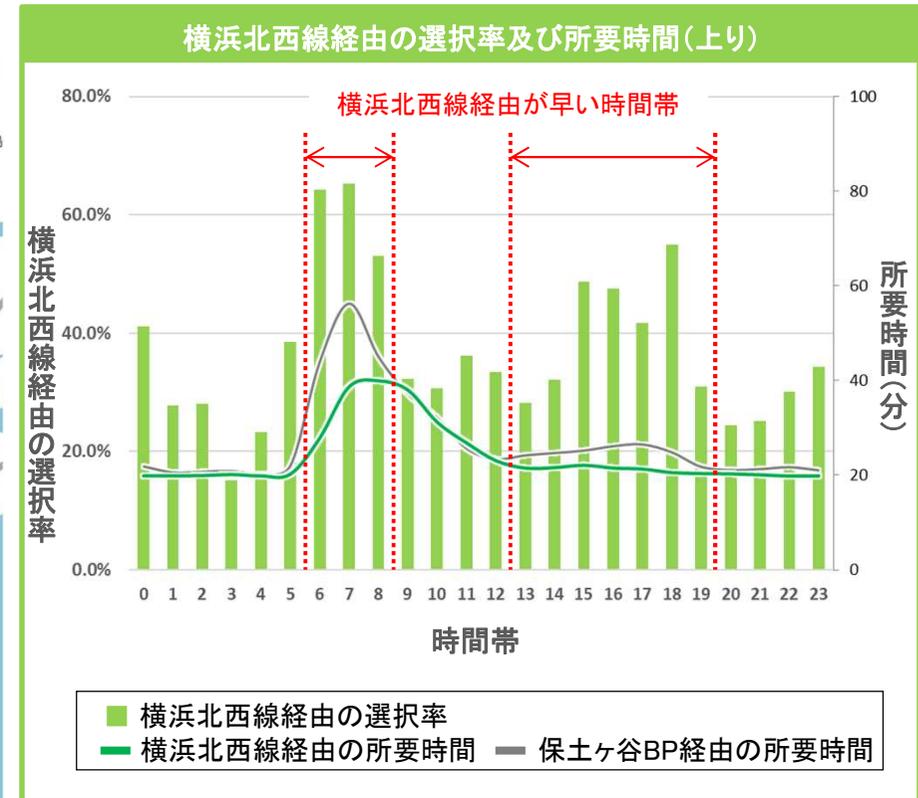
○横浜北西線の開通後、神奈川エリアでは狩場線を除いた路線において約2割以上が横浜北西線経路を選択
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響が含まれます。



<使用データ> ETCデータ
 <集計期間> 開通後: 2021年11月1日(月)~11月30日(火)の平日平均
 ※東名高速: 東名高速の横浜町田ICより西のIC

4. 時間帯別の経路選択状況(横浜町田以西⇒大黒JCT)

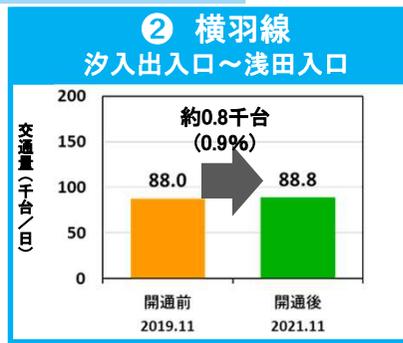
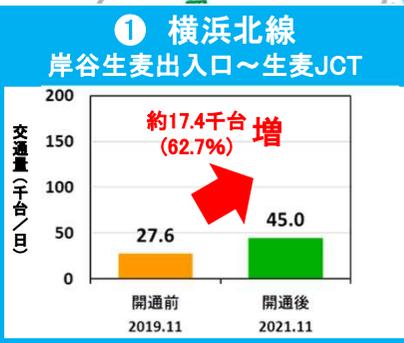
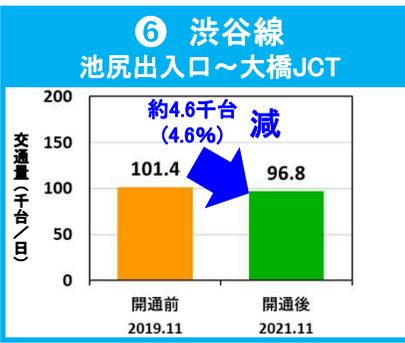
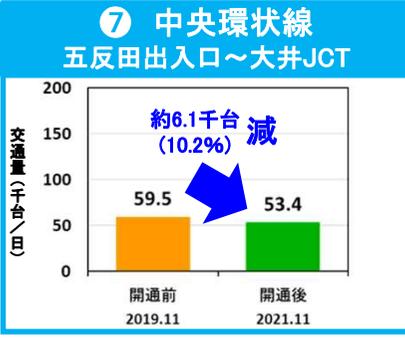
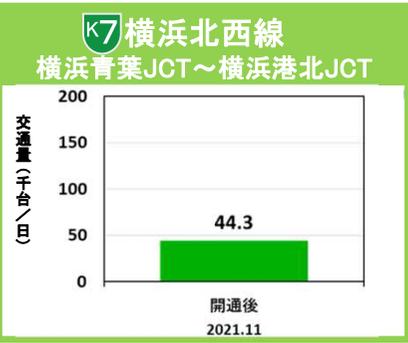
○横浜北西線の開通後、東名高速から大黒JCTへの利用者は、保土ヶ谷BP経由が混雑する朝ピーク時(6~8時)では約6割が横浜北西線経由を選択
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響が含まれます。



<使用データ> ETCデータ
 <集計期間> 開通後: 2021年11月1日(月)~11月30日(火)の平日平均
 ※東名高速: 東名高速の横浜町田ICより西のIC

(参考)横浜エリアの断面交通量(首都高)

○横浜北西線の開通により、横浜北線の交通量は増加
 ○横浜北西線への転換が見込まれる三ツ沢線、狩場線等の交通量は減少
 ※ただし、横浜北西線の開通により交通量の増加が見込まれる横羽線及び湾岸線において、現状では変化が少ないことを踏まえると、全体的に新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響が含まれていると考えられる。

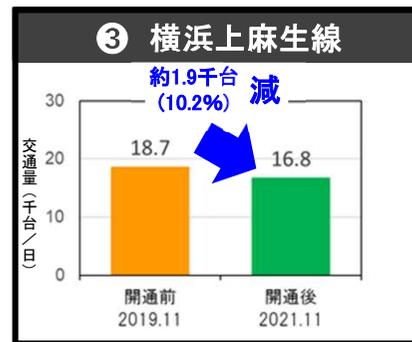
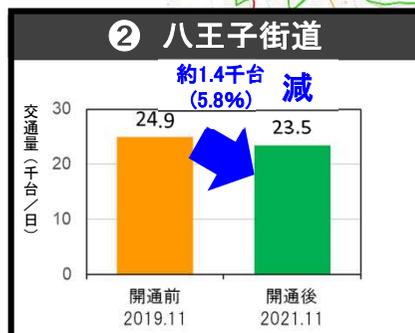
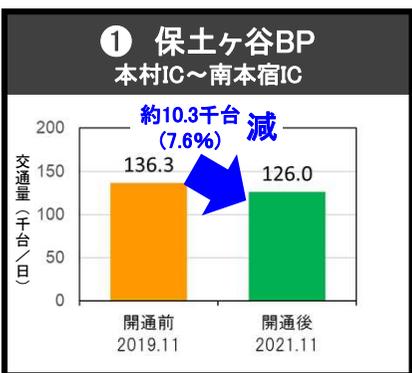
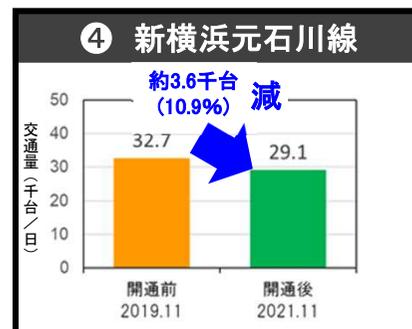
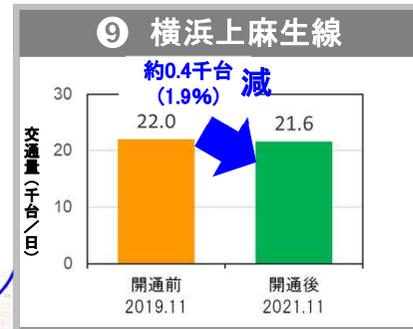


<使用データ>
 首都高車両感知器データ
 <集計期間>
 開通前:2019年11月1日(金)～11月30日(土)の平日平均
 開通後:2021年11月1日(月)～11月30日(火)の平日平均

(参考)横浜エリアの断面交通量(一般道)

○横浜北西線の開通により、横浜北西線の並行路線の交通量は減少

※ただし、横浜北西線の影響が少ないと想定される路線において、交通量が減少していることを踏まえると、全体的に新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響が含まれていると考えられる。



<使用データ>

JARTIC断面交通量情報

<集計期間>

開通前:2019年11月1日(金)~11月30日(土)の平日平均

開通後:2021年11月1日(月)~11月30日(火)の平日平均